

日本の状況（厚生労働省エイズ動向委員会「2015年エイズ発生動向年報」より）

(1) HIV感染者数/AIDS患者数

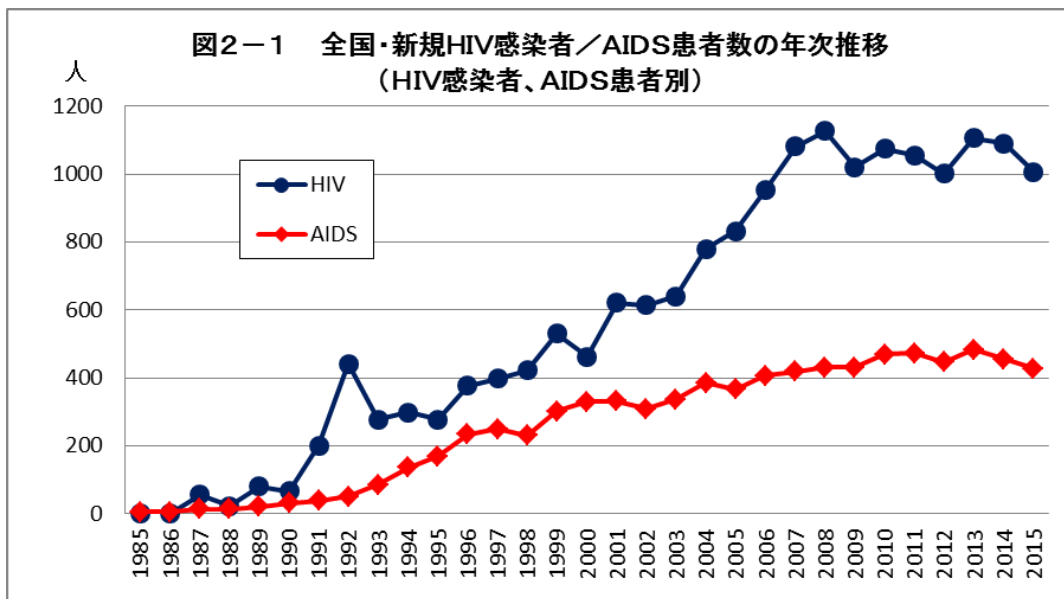
2015年は、新規でHIV感染者1,006人、AIDS患者428人、併せて1,434人の報告があり、前年より112人減少し、ともに過去8位の報告数となった（表2-1、図2-1）。

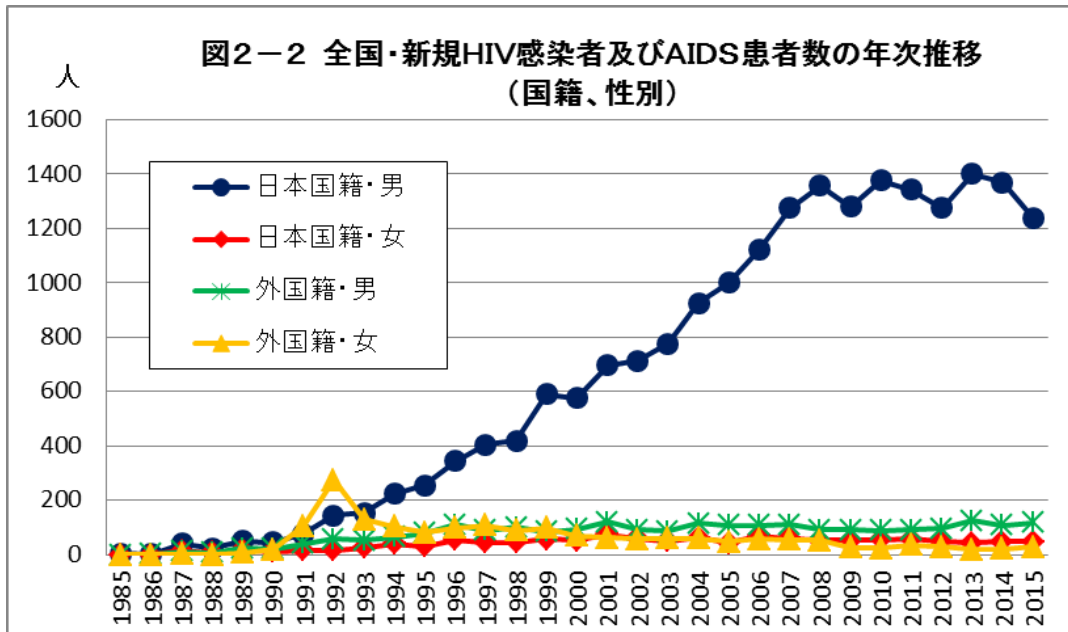
新規AIDS患者の報告数は新規HIV感染者及びAIDS患者の約3割を占める状況が続いている。

新規HIV感染者及びAIDS患者1,434人のうち、男性が1,357人（94.6%）と大半を占めている（図2-2）。

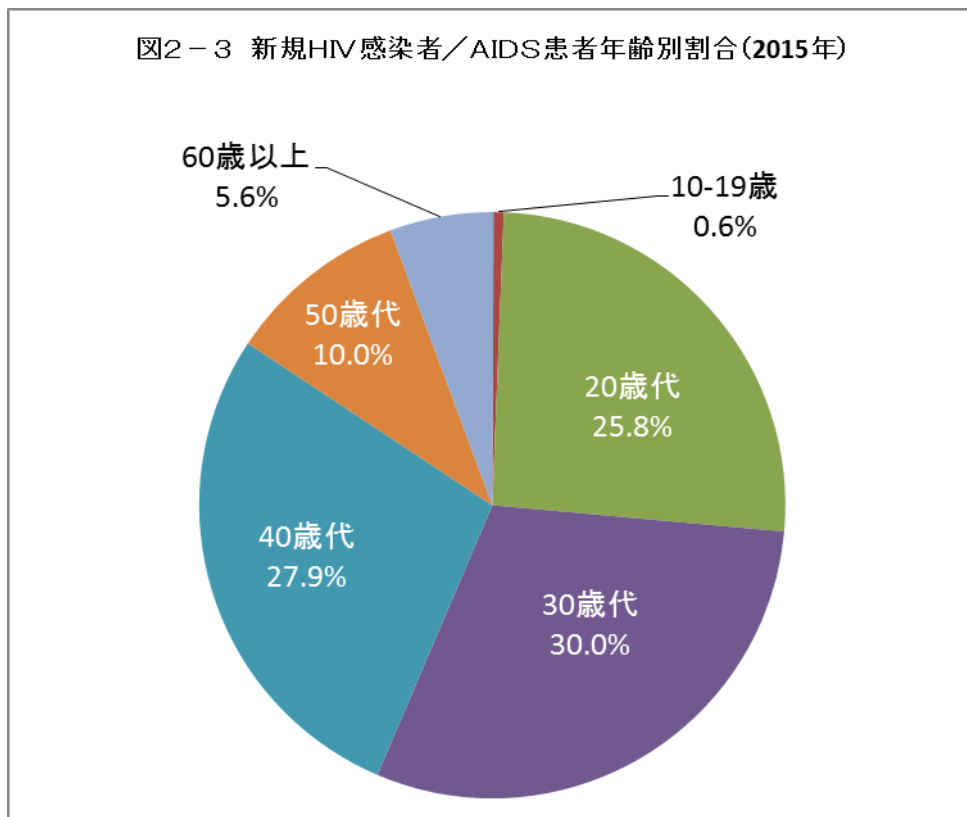
表2-1 2015年のHIV感染者及びAIDS患者報告数

区分	2015年新規	1985年からの累計
HIV感染者数	1,006人（過去8位）	17,909人
AIDS患者数	428人（過去8位）	8,086人
合計	1,434人（過去9位）	25,995人





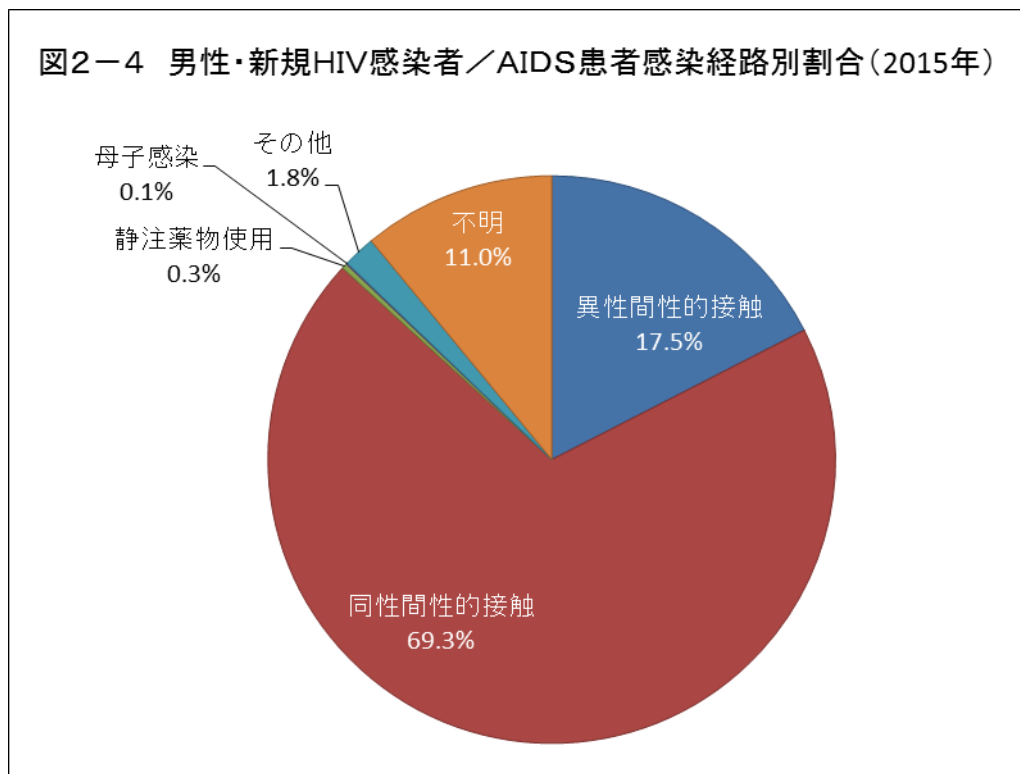
2015年の新規HIV感染者及びAIDS患者を年齢別にみると、30歳代が430人(30.0%)と最も多く、次いで40歳代400人(27.9%)、20歳代370人(25.8%)となっている(図2-3)。



(2) 感染経路

ア 男性

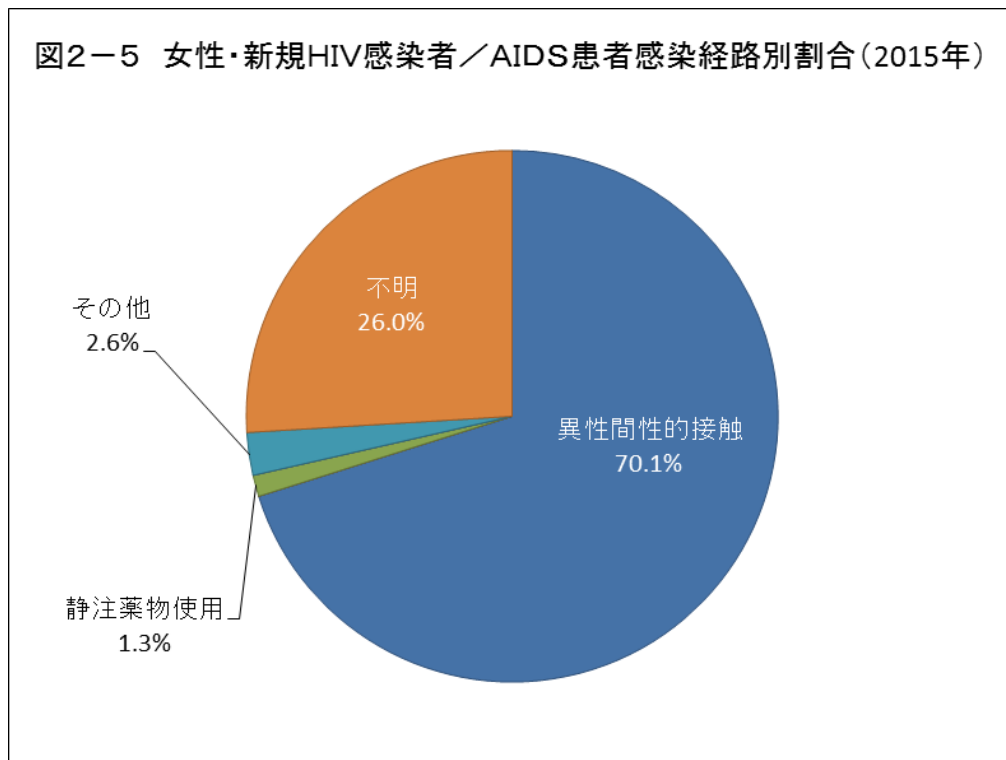
2015年に報告のあった男性1,357人の感染経路は、異性間の性的接触が237件(17.5%)、同性間の性的接触が941件(69.3%)、静注薬物使用4件(0.3%)、母子感染1件(0.1%)、その他・不明は174件(12.8%)であった(図2-4)。



イ 女性

2015年に報告のあった女性77人の感染経路は、異性間の性的接触が54件(70.1%)、静注薬物使用1件(1.3%)、その他・不明が22件(28.6%)であった(図2-5)。

図2-5 女性・新規HIV感染者/AIDS患者感染経路別割合(2015年)



(3) 報告地別

ア 地域ブロック別

2015年の新規HIV感染者及びAIDS患者数は、北海道・東北、東海、近畿、中国・四国で前年より増加し、一方、東京、東京を除く関東・甲信越、北陸及び九州で減少した(表2-2)。

東海地区の各県は前年と比較し、新規HIV感染者及びAIDS患者数の変動は少なく横ばいとなっている。(表2-3、図2-6)。

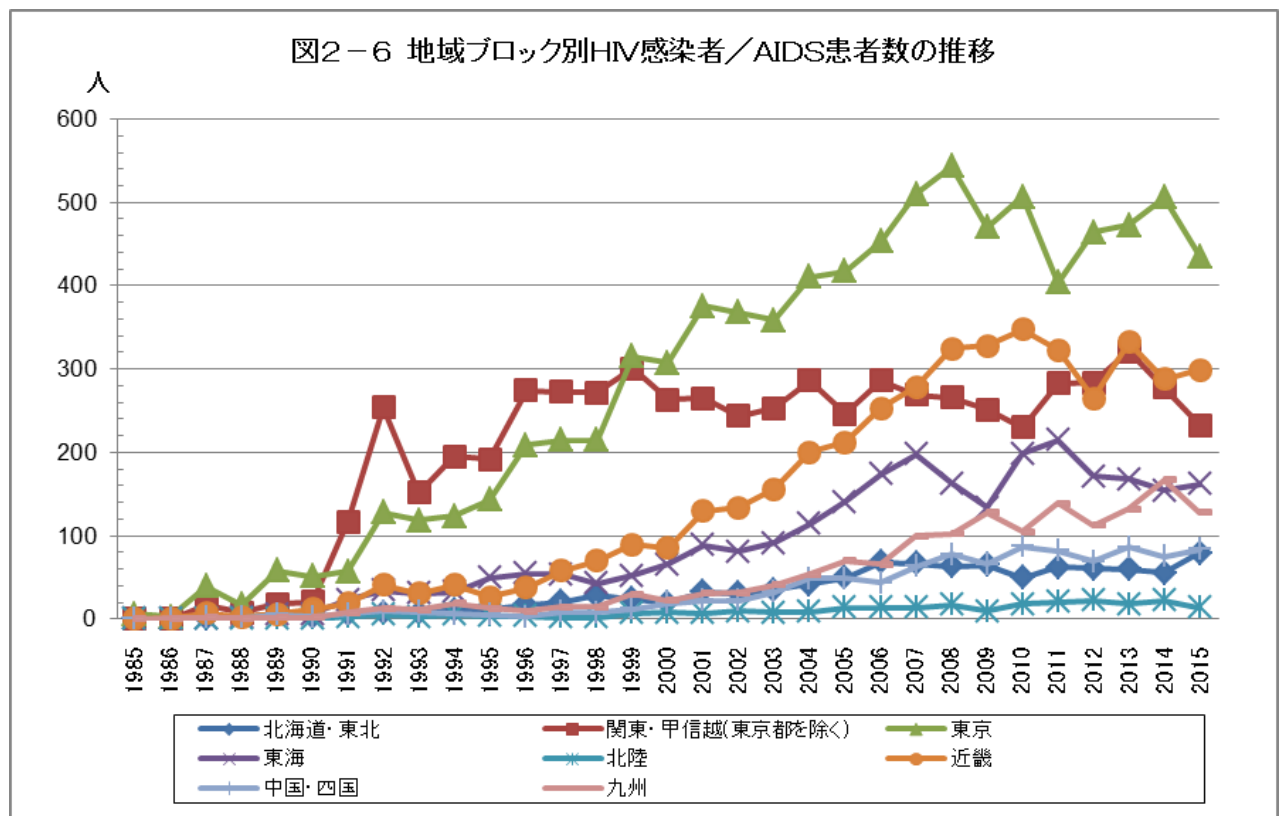
表2-2 ブロック別新規HIV感染者及びAIDS患者報告数(2014年・2015年)

地域ブロック	HIV感染者			AIDS患者			合計		
	2014年	2015年	差	2014年	2015年	差	2014年	2015年	差
北海道・東北	36	52	16	20	27	7	56	79	23
関東・甲信越*	171	146	-25	107	87	-20	278	233	-45
東京	410	364	-46	96	71	-25	506	435	-71
東海	101	103	2	53	59	6	154	162	8
北陸	13	6	-7	9	8	-1	22	14	-8
近畿	206	218	12	82	81	-1	288	299	11
中国・四国	45	47	2	30	37	7	75	84	9
九州	109	70	-39	58	58	0	167	128	-39
合計	1091	1006	-85	455	428	-27	1546	1434	-112

※東京を除く関東・甲信越

表 2-3 東海地区新規HIV感染者及びAIDS患者報告数(2014年・2015年)

東海4県	HIV感染者			AIDS患者			合計		
	2014年	2015年	差	2014年	2015年	差	2014年	2015年	差
岐阜県	9	14	5	11	10	-1	20	24	4
静岡県	16	21	5	8	6	-2	24	27	3
三重県	9	6	-3	2	0	-2	11	6	-5
愛知県	67	62	-5	32	43	11	99	105	6
合計	101	103	2	65	59	-6	166	162	-4



イ 都道府県別

2015年における新規HIV感染者数の都道府県別の順位は、1位東京都、2位大阪府、3位愛知県であり、新規AIDS患者数においては、1位東京都、2位大阪府、3位愛知県であった。

人口10万人当たりの報告数における順位では、新規HIV感染者においては1位東京都、2位大阪府、3位沖縄県、AIDS患者においては、1位香川県、2位沖縄県、3位高知県であった（表2-4、表2-5）。

なお、岐阜県では、新規HIV感染者数は13位（人口10万人当たり報告数は10位）、新規AIDS患者数は9位（人口10万人当たり報告数は9位）であり、新規HIV感染者数（人口10万人当たり報告数）は、前年順位より上がった。新規AIDS患者数は前年と同順位であり、新規AIDS患者人口10万人当たり報告数は前年順位より下がった（図2-7、図2-8）。

表2-4 新規HIV感染者数の都道府県順位（2015年）

順位	都道府県	報告数	順位	都道府県	10万人当たり
1	東京都	364	1	東京都	2.718
2	大阪府	168	2	大阪府	1.901
3	愛知県	62	3	沖縄県	1.196
4	神奈川県	54	4	岡山県	0.884
5	北海道	35	5	愛知県	0.832
6	千葉県	32	6	徳島県	0.785
7	福岡県	30	7	奈良県	0.727
・	・	・	8	宮崎県	0.718
・	・	・	9	香川県	0.714
13	岐阜県	14	10	岐阜県	0.686

表2-5 新規AIDS患者数の都道府県順位（2015年）

順位	都道府県	報告数	順位	都道府県	10万人当たり
1	東京都	71	1	香川県	0.917
2	大阪府	53	2	沖縄県	0.704
3	愛知県	43	3	高知県	0.678
4	神奈川県	33	4	宮崎県	0.628
5	福岡県	27	5	大阪府	0.600
6	千葉県	22	6	愛知県	0.577
7	埼玉県	13	7	福岡県	0.530
8	北海道	12	8	東京都	0.530
9	岐阜県	10	9	岐阜県	0.490
9	広島県	10	10	滋賀県	0.424
9	沖縄県	10			

図2-7 岐阜県の新規HIV感染者/AIDS患者報告数順位

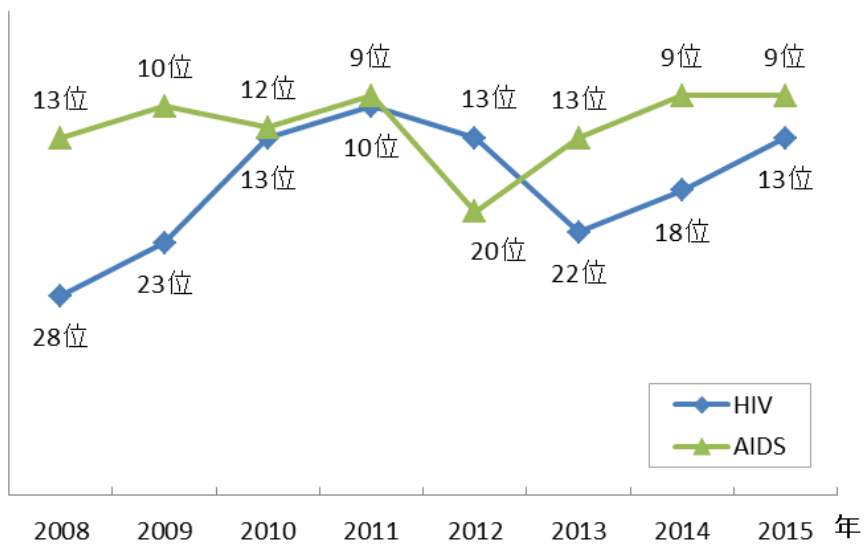
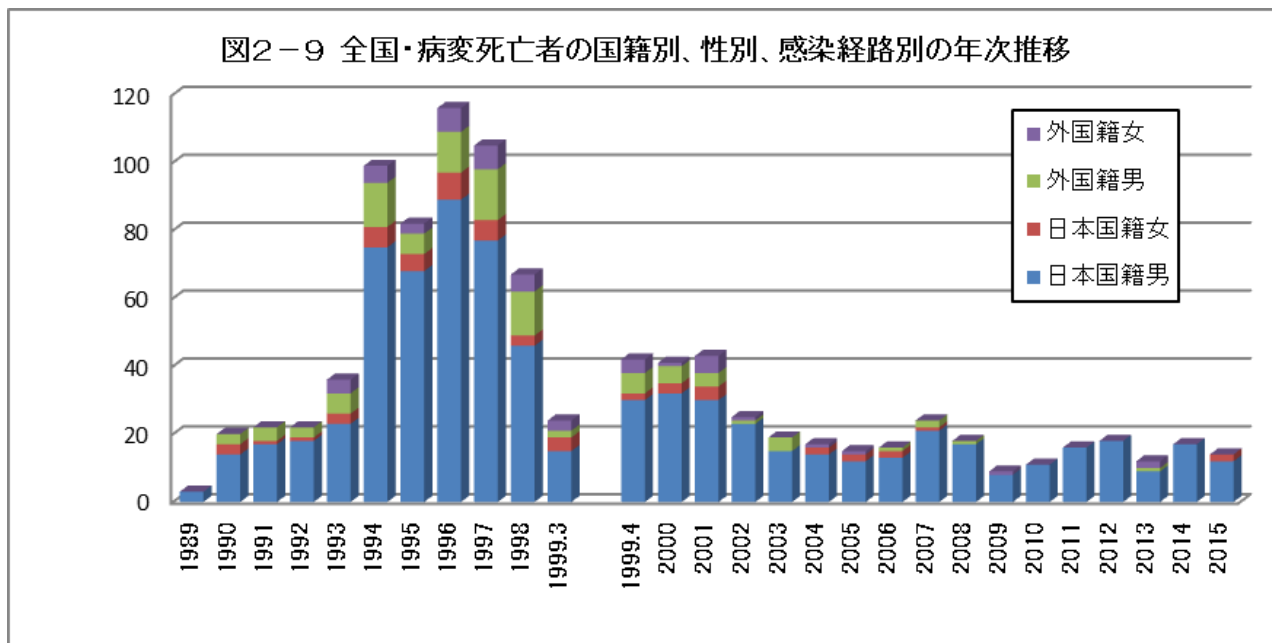


図2-8 岐阜県の新規HIV感染者/AIDS患者報告数(人口10万対)順位



(4) 病変死亡者数

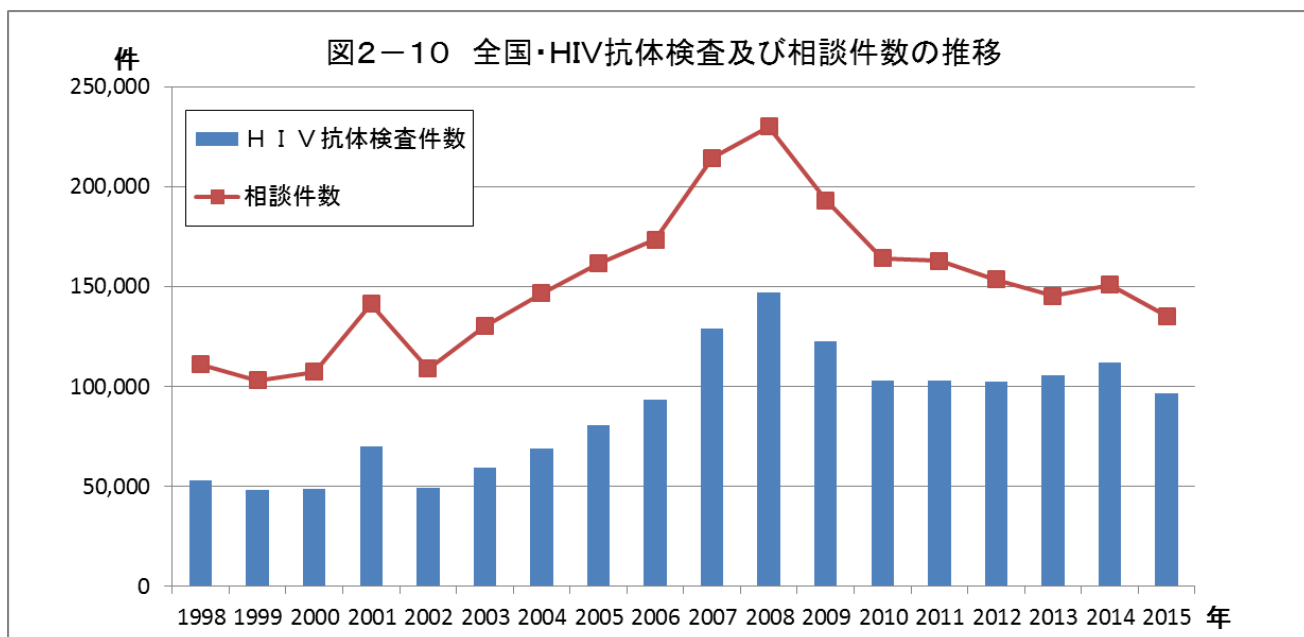
2015年の病変死亡者については、14人（日本国籍男性12人、日本国籍女性2人）の任意報告があった（図2-9）。



※1999.4以降は任意報告

(5) 保健所等のHIV抗体検査件数及び相談件数

保健所等における2015年のHIV抗体検査件数は96,740件、相談件数は135,282件であった。抗体検査件数、相談件数はそれぞれ前年より15,003件、15,711件減少した（図2-10）。



(6) 2015 年エイズ発生動向調査概要のコメント

1. 新規H I V感染者数及び新規A I D S患者数は平成 26 年に引き続き減少した。女性の新規H I V感染者報告数は過去 3 年間、46 件、50 件、58 件と数は少ないが増加傾向を示した。
2. 新規H I V感染者及び新規A I D S患者の感染経路としては、性的接触によるものが 8 割以上で、男性同性間性的接触によるものが多い。H I V感染症は予防が可能な感染症である。H I Vに感染していない者においては、適切な予防策をとること、H I Vに感染した者においては、まずは自分の感染を知ることが、今後の感染拡大を防ぐために重要となる。国民の皆様には、保健所の無料・匿名での相談や検査の機会を積極的に利用頂きたい。
3. 献血における 1 0 万件当たりの陽性者件数は昨年比して減少した。血液製剤によるH I V感染を防ぐため、H I V感染症が疑われる場合、国民の皆様には保健所等での無料・匿名検査を積極的に利用頂きたい。
4. 新規H I V感染者及びA I D S患者数に占めるA I D S患者数の割合は、約 3 割のまま推移している。早期発見は個人においては早期治療、社会においては感染の拡大防止に結びつく。自治体におかれては、エイズ予防指針を踏まえ、引き続き利便性に配慮した検査相談体制を推進していただきたい。